



とくべつ ジミーの特別な クリスマス



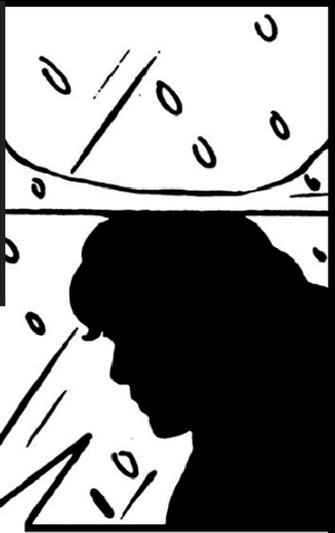
これは、1953年の寒いクリスマス夜の
お話を話します。人々は最後の買い物を
終えようと、急いでいました。町の裕福な
地域では、家々がきれいなイルミネーションで
かざられています。



けれども、一軒の家だけには、なぜかライトも
かざりつけもありませんでした。まるで、家の
住人がクリスマスのことを完全にわすれて
しまったかのようです。



キャシー、元気をだしておくれ。
どんなにたくさんのなみだを流しても、
ジミーがもどってくるわけじゃないんだ。
クリスマスは、感謝し幸せな
気持ちになる時だよ。



わかってるわ、グレッグ。だけど、去年の
クリスマスイブのことを思うと、幸せな
気分になんてなれないのよ。

最後にジミーを見た時の
ことは、絶対に忘れないわ。
窓の外を見ると、ジミーは
家の前の庭で雪だるまを
作りながら、子犬と遊んでいたの。
ああ、グレッグ。ジミーを、決して
外で一人だけになんか
するべきじゃなかったのよ!



ジミーには、絶対に道路に飛び出しちゃいけないって、
口を酸っぱくして言っていたのよ。それなのに、あの子は
子犬を追いかけて・・・それであんなことになったのよ。
道路がこおっていて、車は止まらずに・・・それで、
ジミーは いってしまっただわ!

そんなふう^{じぶん}に、自分を
責め^せつづけては いけないよ。

ジミーは、イエス様^{さま}と
クリスマス^すを 過ごしに
行ったんだ。それ以上^{いじょう}に
すばらしい クリスマス
なんて、ないだろう？
きっと 今年^{ことし}だって、
すばらしい クリスマス^すを
過ごしているさ。ジミーを
悲^{かな}しませる こと^い と言^いったら、

ぼくたちが こんなに
悲^{かな}しんでいるの^みを見ること
だけだよ。ねえ、キャシー。

ジミーに、ぼくたちが
幸^{しあわ}せになろうと している
ところ^みを見せようよ。

ジミーは、わたしたちと
いっしょに クリスマスの
日^ひを 楽しむことさえ
できなかったのよ。

でも、幸^{しあわ}せじゃ ないのに、
そんな 振^ふり できないわ！

いっしょに クリスマス
キャロルでも
歌^{うた}わないか？

わかったわ、グレッグ。
何^{なん}とか がんばるわね。
どの 曲^{きょく}を
ひきましょうか？

そうだな、
「ああ、ベツレヘムよ」は
どうだい？



やっぱり、
今^{こん}夜^やは ひけ
ないわ・・・

じゃあ、今^{こん}夜^やは 外^{そと}に
出^でかけようか。しばらく 家^{いえ}から
はなれるのが いいかも。



かど きょうかい こんや
角の教会では今夜、
がっしょうたい
合唱隊がクリスマスキャロルを
うた
歌っているそうよ。
まね
招かれてるんだけど・・・



それはいいね。
じゃあ、行こうよ。



あなたの言った通りね。
そと しんせん くうき
外の新鮮な空気を
すうと、気分がいいわ。

いっぽう まち はんたいがわ しつそ あ うすぐら
その一方、町の反対側には、質素で明かりも薄暗い
いえ たちなら や
家が立ち並んでいました。そこに、1軒のあばら家が
ありました。ほんの2週間前まで、そこには少年が
ははおや す
母親といっしょに住んでいました。その少年が今、
おも あしど いえ む
重い足取りで、だれもいない家へ向かっています。
きたなくてみすぼらしい姿の少年は、着古した
すがた しょうねん きふる
コートの中で寒さにふるえていました。小さな
なか さむ ちい
茶色い犬のサンディが、とことこと少年に付いて
ちやいろ いぬ しょうねん つ
歩いていました。少年は、2週間前に病院で
ある しょうねん しゅうかんまえ びょういん
母親とした最後の会話を思い出しながら、悲しい
ははおや さいご かいわ おも だ かな
クリスマスをお過ごししていました。



ジミー、おまえはずいぶんと
おお
大きくなったね。

うん、もうすぐ8才だものね!

お医者様がね、わたしはもう長くないんだって。
イエス様が、天国のすばらしいおうちへ連れて
行ったださるんだ。イエス様は、おまえの
めんどうも、ちゃんとみてくださるからね。



別に、そんなに遠くへ行くわけじゃ
ないんだ。お祈りすれば、母さんと
話せるよ。きっと、イエス様が
助けてくださるから。おまえのために
良い両親を見つけてくださるように、
イエス様にお願いしておいたからね。



だけど、お母さん以外の
お母さんはいないよ!

ずいぶんたくさん歩いたなあ、サンディ。
ここの角にすわって、一休みしよう。
つかれただろ? ぼくは、へとへとだよ。
ブルブル! 寒いなあ! ごめんね、
サンディ。ぼくたちが行けるような
あったかい場所、知らないんだ。
イエス様は、ぼくたちを望んでいる
人たちを見つけれなかったのかもね。
今夜は、マーフィーの納屋にとまろうか。
あそこなら、牛はいるけど、暖かい
からね。イエス様だって、クリスマスには
納屋にとまったんだよ。

お母さん、行かないで!
サンディも、ぼくも、さびしく
なっちゃうよ!



これは、母さんがためておいた
お金だ。イエス様が おまえのために
だれかを送ってくださるまでは
もつだろう。いつも、お祈りするのを
忘れちゃいけないよ。

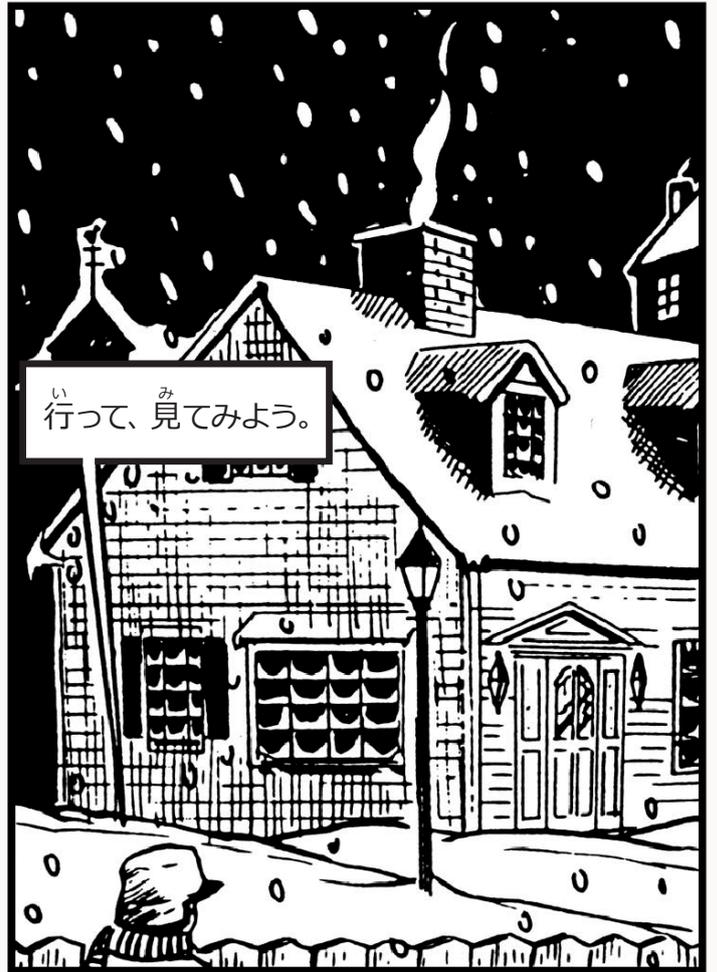


うん、わかった、お母さん。

この^{おお}の^{いえ}大きな家にはみんな、
きれいなイルミネーションが
ついてるね。でも、なぜあそこの
家には、ライトが^{ぜんぜん}ついて
ないんだろう。だれも^す住んで
いないのかな。



行って、^み見てみよう。



すごい^{おお}大きな^{へや}部屋だ！ ^{だんろ}暖炉にだって、
^ひ火がついてるぞ。それにしても、^{さむ}寒いなあ！



ふ〜ん、だれか^す住んでる
みたいだけど、^{びょうき}病気なのかなあ。
それとも、クリスマスが
^す好きじゃないのかな。





ごめんください! どなたか、
いらっしゃいますか?



おかしいなあ。だれも いない
みたいじゃないか。サンディ、
どこへ 行ったんだい?

ああ、そこにいたのか! たし 確かに、ひ の そばは 暖かいね。
じゅうたんも すごく ぶ厚くて 気持ち いいし。暖まるまでなら、
いても いいかな。それにしても、こんな 所に 住めたらなあ。
ステキだよなあ、サンディ?



がっしょうだん うた
合唱団の歌、すばらしかったわね、
グレッグ。外に連れ出してくれて、
ありがとう。イエス様についての
すばらしい曲を聞いたら、
イエス様がわたしたちを愛して
くださっていることを思い出す
助けになったわ。だけど、
ジミーがいないのは、やっぱり
さびしいわ。今夜 いっしょに
いられたら よかったのに。

じかん
時間は、すばらしい
いやし手だ。主が
ご自身の子どもたちの
ために「万事を益と
なるようにして
くださる」ことを、
信じよう。¹



クリスマスの
イルミネーションも、
つけたほうが
いいかしらね。
イルミネーションが
ないと、確かに
陰気だわ。

あれ、変だぞ。玄関が
少し開いている。
出かけた時、確かに
ちゃんと閉めて、
ロックしたはず
だけどなあ。



1 口語訳聖書、
ローマ人への手紙 8:28

きを付けて、グレッグ。
もしかしたら、
どろぼうがいるかも!

確かに、だれかここにいたみたいだ。
見てごらん。暖炉の前の
じゅうたんがぬれてるよ。

まるで、ジミーが
雪遊びから帰ってきて
暖炉の前で暖まった
後みたいだわ。くつに
付いた雪が解けて、
こんなふうじゅうたんが
ぬれていたもの。

変だなあ! 家中を
見回してみよう。



みて、グレッグ！ ジミーの
部屋の電気がついてるわ！

あれ、ジミーの
おもちゃが床に
出てるぞ。

ジミーのベッドに
だれかいる！

君は今日、この部屋に
いたでろ。電気を
消し忘れたんじゃ
ないかな。

男の子じゃないか。ぐっすり
眠ってるぞ。おかしな
小犬もいっしょだ。

ねえ、みて、
グレッグ。
かわいらしいじゃ
ない？





かわいそうに。
ふく
服がぼろぼろだ。
いったい
一体、だれ
なんだろう。それに、
どうやって家に
はい
入ったんだろう？

ねえ、グレッグ。もしかしたら、
かみさま
神様がこの子をここに送って
くださったんじゃないかしら。
わたしたちがこの子を
あい
愛するようになって、神様が
おく
送ってくれたのかもしれないわ！



でもキャシー、この子は
ぜったい
絶対にどこかの子だよ。
この子の家族を見つけないと。



この子を見ると、本当にわたしたちの
ほんとう
ジミーを思い出すわ！ ジミー…
ジミー、ねえ、ジミー、目を覚まして。



はい、お母さん。
なに？



うわっ、ごめんなさい！
ほんとう
本当にすみません！ どうか、
おこらないでください。
サンディ、ベッドから下りて！
あし
足がきたないんだから！

きにしないで
いいのよ。あなたの
名前、本当に
ジミーなの？

はい。サンディとぼくは
すごく寒くて、暖まり
たかただけなんです。
玄関のドアが風で
開いて、サンディが中に
入っちゃったので、その
後を追いかけて
入ってきたんです。

それで、家にだれもいなくて、この部屋におもちゃが
たくさんあるのを見たら、つい遊びたくなっちゃって。
そしたら、このベッドがあって…。ぼく、こんな
ベッドでねたことなんて、ないんです！ いつも床の
上でねてるんです。でも、ベッドにぼくの名前が
書いてあるのを見たら、もしかしたら、イエス様が
ぼくとサンディのために見つけてくれたのは、この
家なのかなと思ったんです。勝手に入っちゃって、
すみませんでした。もう行きますから。

そうだったの、ジミー。
心配しないでいいわよ。

サンディと、どこへ
行くの、ジミー？

今夜は、マーフィーの
納屋でねようかと
思っています。

だけど、ご両親は
どこなんだい、ジミー？

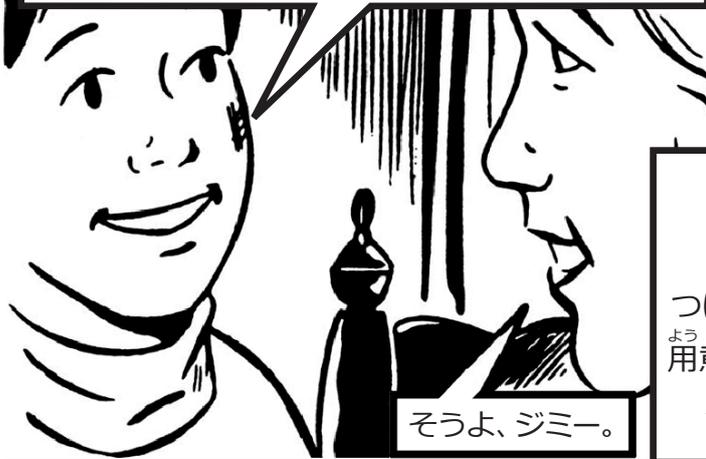
ちょっとまって、ジミー。あのね、ぼくたちにも、
君くらいの年の男の子がいたんだ。その子の
名前も、ジミーだったんだよ。ちょうど1年前、
その子はイエス様の元に行ったんだ！

お父さんは、ずっと前に
亡くなりました。そして
お母さんも、最近イエス様の
元へ行ったんです。お母さんは、
イエス様がサンディと
ぼくのために家族を
見つけてくださるからって
言ってたんですけど、まだ
見つからないんだと思います。
本当におじゃましました。
もう行かないと。

あなたのお母さんとわたしたちの
ジミーは二人とも、天国にいるのね。
だから、わたしたちには、世話して
愛してあげる子が必要だし、あなたには、
お母さんとお父さんが必要だわ。
あなたは、わたしたちといっしょに、
ここにいたいかしら？

サンディと ぼくが、ですか？ ぼくたち
両方ともですか？ ここに いて いいんですか？
本当に、ぼくのお母さんと お父さんになって
くれるんですか？ いっしょに 暮らせるんですか？

うわあ、イエス様、ありがとう！
本当に、ぼくたちのために だれか
見つけてくださったんですね！？
お母さんが 言った通りだ！



そうよ、ジミー。

明日は
イルミネーションを
つけて、クリスマスツリーも
用意しよう。本当に 楽しい
クリスマスになるぞ！

そうよ、家族として、
いっしょに クリスマスの
お祝いをするの！
ねえ、お腹が すいてる
でしょう。下に行つて、
今から クリスマスの
お祝いを 始めましょうよ。



「天なる 神には
み栄えあれ・・・」

ぼくの代わりに、お父さんと
お母さんのために 男の子を 送つて
くれて、ありがとう、イエス様！

イエス様、わたしの ジミーのために、
こんなに すてきな 家庭を 見つけて
くださって、ありがとうございます！